

混凝土中ニ於ケル鐵筋ノ錆

言

議

土木學會誌

第一卷第五號

大正四年十月

工學士 三池貞一郎

鐵筋こんくりーとニ付充分ノ經驗ヲ有セサルカ故ニ今回試驗ノ結果御發表ニヨリ利益ヲ享ケタルコト多ク一モ申述ヘキ事モ無之只左ノ點ニ付御教示ヲ乞ハントス

(1) 鐵材ヲ錆ナシニ使用スルコトハ實際困難ナルヘケレハ使用ニ差支ナキ錆ノ程度

(2) こんくりーと内ノ鐵材ニ錆ヲ生スルハ密着ノ度合ニヨルヘケレハ容易ニ密着セシムヘキ方法

結論二、三、四ニハ理由ハアレトモ方法ナシ即チ(一)ニ完全ニ豊富ナルせめんとヲ以テ包被云々トアレトモ如何ニシテ完全ニ包被スヘキカヲ指示アリタシ(二)ニテハ如何ナル點ヲ注意スルカ等ノ如シ

(3) 鐵材ノ錆ヒルノハ多ク乾濕變化多キ部分ニ多キカ如シ故ニ水位ノ上下スル部分及ヒ水面ノ上下幾尺迄影響ヲ受クルカ(完)